

令和4年度 釜利谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

令和3年度も新型コロナウイルスの影響が続いていて、再開・自粛・縮小等を繰り返している状況であった。
感染予防対策の知識の正しい情報を伝え、工夫次第で出来る活動のバックアップを行いたい
様々な事業を積極的に展開することで、地域の方が「集まり方」「活動の仕方」にヒントを得られるようにすすめていきたい。

今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> | ■ | 「これからも住み慣れた釜利谷で安心してくらすしていくために一緒に考える会”かまもりや一の”」の継続
地域住民・事業者や小学校等に参加を呼びかけ、“住みやすい釜利谷”について継続して考えていく。また、かまもりホルダーの周知を継続する。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 認知症の正しい理解、予防、介護者への支援の充実
講演会の開催や、園児、小学生、中学生向けの認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、釜利谷地域ケアプラザ包括エリア内の認知症キャラバン・メイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 住みなれた地域に住み続けるため、地域住民による活動の情報リスト「釜利谷みんなの情報リスト」と、お買い物後の配達情報も掲載している「釜利谷みんなのお買い物情報」の情報更新を行う。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | エンディングノートの普及活動の工夫
広報紙への掲載、地域のサロンに出向いての周知に加えて、地域ケアプラザで説明会を開催する。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 支援者側が感じる課題やニーズにとらわれない視点での新たな教室や講座、情報提供を行い、より多くの方に福祉・保健サービスが提供できるようにしていく。 |

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

地域で暮らす方の方が一の事態に備えるツールである「かまもりホルダー」ですが、令和4年度より年齢制限を取り払い、エリアにお住まいの方「全て」に広げました。地域ケアプラザとして誰もが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるような事業を今後も検討・推進していきたいと考えています。
新型コロナウイルス感染症による活動の縮小等が続いており、外へ出る機会が減っている方もまだいらっしゃいます。その中で地元の歴史を楽しく知る講座の開催等、新たな事業は外へ出るきっかけとなりました。又、地域ケア会議において課題だと共有した「8050問題に関しての相談先がわからない」という件に対し、「支援者の為の相談先リストを作る」という解決策に結び付け、金沢区生活支援課と共にその作成を進めることができました。

区からのコメント

誰もが安心して住み続けることができるよう「かまもりホルダー」の対象の年齢制限を撤廃し新たな登録者が増えるなど、地域にお住まいの方の安心に繋がりました。また、お住まいの方の個性や得意なことに応じて活躍の場を設けるなど、ケアプラザの場や機能を活かした支援が行われています。特に、障害児のネットワークについては力を入れて取り組まれており、今後も顔の見える丁寧なネットワークを維持・拡大していただきますようお願いいたします。
地域で目立ってきた「いわゆる8050」の課題に対して、個別の支援に留まらず地域ケア会議の場で支援者で議論を重ね、支援者向けの相談先リスト作成に結び付けられました。8050等の課題を抱える世帯の増加が見込まれることから、早期に適切な支援機関につながるよう、今後は啓発にもぜひ力を入れて進めていただきますようお願いいたします。